

荏原製作所の「知財ROIC」：知財を価値創造のエンジンへ変える独自経営指標

従来の知財管理モデル：コストセンター

量的規模・防衛の重視

- 評価の主軸：出願件数・保有数 (量的規模)
- 組織の役割：防衛的なコストセンター
- 対話の言語：専門的な知財・法務用語



量的規模から「質的効率」の
評価へ転換
出願件数の拡大主義を捨て、投資（費用・
工数）に対する成果の比率を重視

パラダイムシフト

出願件数・保有数
(量的規模)

評価の主軸

投資に対する
事業貢献度(質的効率)

防衛的な
コストセンター

組織の役割

価値創造の牽引役
(ドライバー)

専門的な
知財・法務用語

対話の言語

管理会計言語
(ROIC、事業利益等)

荏原製作所の「知財ROIC」モデル：価値創造ドライバー

質的効率・事業貢献の重視

- 評価の主軸：投資に対する事業貢献度 (質的効率)
- 組織の役割：価値創造の牽引役 (ドライバー)
- 対話の言語：管理会計言語 (ROIC、事業利益等)



外部データ (PatentSight+)
による客観性の担保
社内評価と外部の客観指標の相関を検証し、
経営層や財務担当者 (CFO) からの信頼を獲得



事業利益 (率) を増加させる4つの要因



知財による
差別化



リスク低減



ブランド力向上



IPランドスケープ
による事業化促進

投下資本回転率を向上させる4つの要因



不要権利の断捨離
(維持費削減)



ライセンス回収



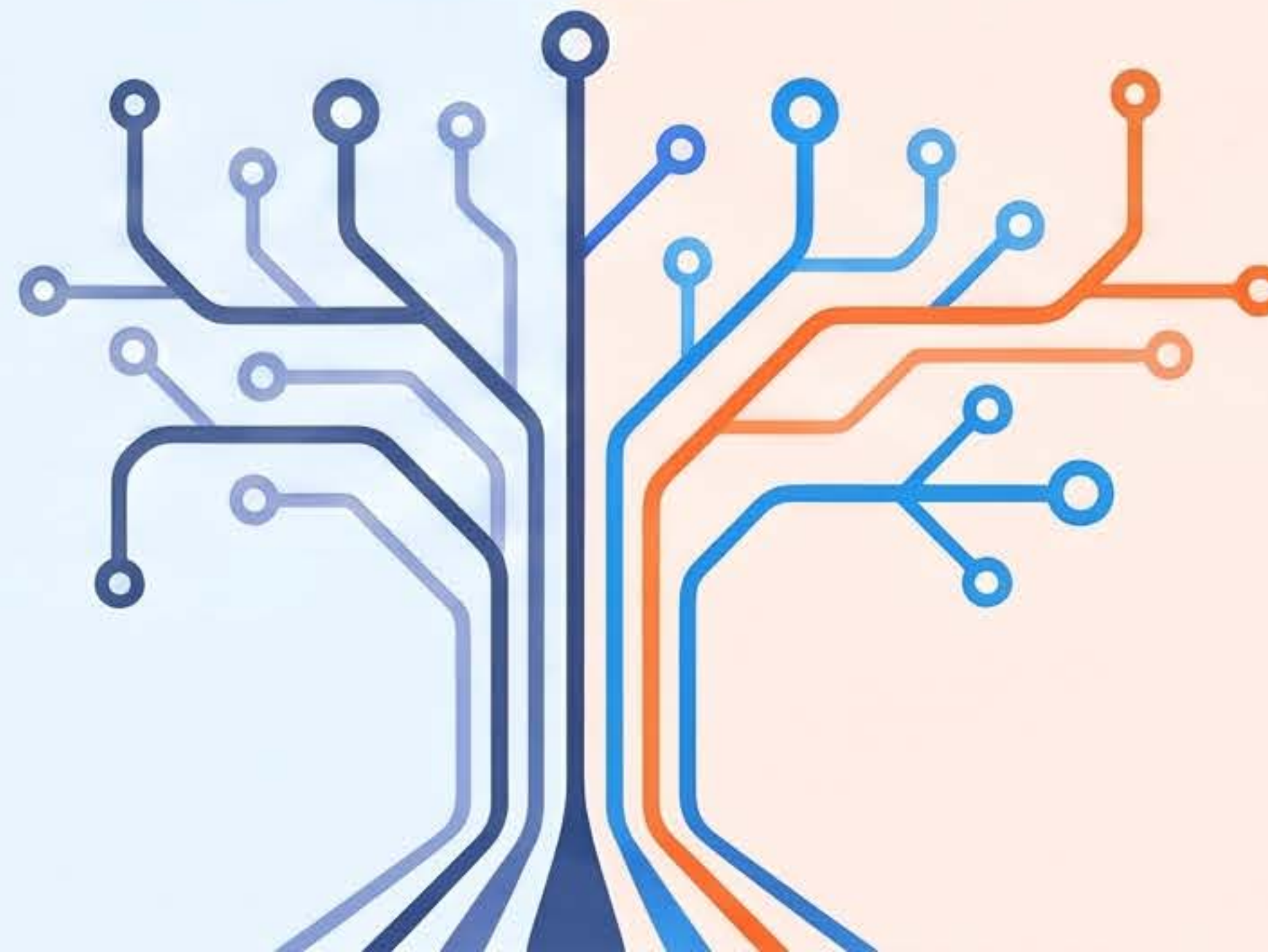
インフラ整備



人的スキルの向上

知財ROICツリーと統合ガバナンス

知財ROICツリー



人的資本・MOTと繋ぐ「技術元素表」

専門スキル (人) と技術 (元素)、知財 (特許) を
一つのストーリーで接続し統合統治。



専門スキル (人)



技術 (元素)



知財 (特許)